

平成 30 年度の事業報告書

特定非営利活動法人BeCOM
代表理事 西田美樹

1 事業の成果

■ 2018 COM杯 英語・日本語スピーチ大会

2018年12月16日(日) 10:00~18:00 / 銚子商工会議所 1F 大会議室

◎事業実施体制の構築 <主催：2018COM杯実行委員会 / 事務局：NPO法人BeCOM>

当年度より銚子市国際交流協会会長を会長とした実行委員会による主催と致しました。

実行委員は、英語教育に携わるBeCOM会員の他、市内外の公教育、及び民間教育機関における英語指導者、市立銚子高校学生で構成し、多角的な視点から大会の意義と役割について協議する体制を作り、大会を運営いたしました。

運営にあたっては地域の諸団体・事業所の皆様からの寄付財源を充当しております。

また、実行委員5名の高校生の他、当日のスタッフとして5名の高校生が大会運営に携わりました。大会運営の現実的な人手として立派に大会を支えられたと同時に、学生が、地域の活動を知り、自らの役割を果たそうと考える行動できる経験の場を提供することができたと考えております。

◎大会内容の充実

大会には県内外から44名が出場しました。

英語暗唱Ⅰでは小学生9名を含め、中学1年生までの計15名が1分半の暗唱発表に、英語暗唱Ⅱでは中学2年生から大学生まで15名が4分の暗唱発表に取り組みました。

公教育における英語指導にも携わるメンバーがいるBeCOMでは、小学校現場における英語学習の現状と課題は概ね理解しています。正しい英文を真似て発話し、暗唱するまで繰り返すことは、言語習得のための練習方法として基本的なもので効果的です。発表者自身にとって、この練習から登壇発表までの一連の取り組みが賞にも勝る経験となっていることは間違いありません。

弁論部門では、英語弁論部門に中学生から大学生の4名、日本語弁論部門に千葉科学大学留学生別科留学生、同大学短期留学生、銚子市国際交流協会主催の「にほんご教室」に通う実習生、市外大学に通う留学生、市立銚子高校留学生など10名が出場し、多様な弁論を聞くことができました。大会キャッチコピー「伝えたい気持ちがある 伝える言葉がある」を体現する部門となっています。テーマに沿って自分の思いを5分にまとめ、母国語以外の英語・日本語いずれかで発表するという容易ではない部門ですが、COM杯が目指す力でもあり、更に多くの挑戦者を迎えたいところです。

■ことばの冒険事業（ことばの冒険の部屋・ことばの冒険の旅）

- ・ことばの冒険の部屋：平成30年9月8日～平成31年2月9日 2組各7回 計21名
すきくるステーションなど
- ・ことばの冒険の旅（おすすめの本発表会）：平成31年2月17日（日） 計23名
銚子市立明神小学校 体育館

地域で生まれ、育つ子供たちが、豊かで前向きな言語生活を送ることを願い、平成30年度も「ことばの冒険」事業を行いました。

今年度7回行った「ことばの冒険の部屋」には、2つの日程に小学校1年生～4年生、計21名が参加。スタッフや参加者同士による本の紹介やことば遊び、アニメーション^(※)、読書やBeCOM版「日本語暗唱集」の音読などを通して「本」や「ことば」に触れてきました。

これまで出会った本が少ない年齢の参加者にとって、他者から紹介される本との出会いは、興味や視野を広げ、新しい視点を与えてくれるものでありました。又、アニメーションや暗唱集音読など多様な角度から触れることばや物語に、子ども達は高い集中力を見せてくれました。

更に今年度は12月1日に「ことばの冒険 遠足 DAY」を実施。観光ボランティアガイドの先生や円福寺ご住職からの説明を伺いながら町を歩き、碑や書物など地域の歴史に触れました。又、プラネタリウム鑑賞や、ことばにまつわるブースを回るなど、知的好奇心や想像力を刺激する遠足であったと思います。

各自がおすすめの本を紹介する発表会「ことばの冒険の旅」は今年度国語科研究校である明神小学校の体育館を、昨年に引き続きお借りし開催。「ことばの冒険の部屋」の参加者以外も含め23名が参加しました。おすすめしたい本の紹介文をまとめる難しさを感じながらも、言葉を探り、それぞれ工夫と練習を重ね、発表に臨んだ表情は教室で見せる表情とはまた違うようにも見えました。

尚、発表会来場者向けアンケートでは好意的な感想が寄せられ、保護者、参加者からは今後も参加したい旨の声が多く聞かれました。

※アニメーション：スペインのジャーナリストであるモンセラ・サルト（1919-）が、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに読む力を引き出すために1970年代から開発したグループ参加型の読書指導メソッド。アニメーションはラテン語のアニマ（魂・生命）に端を発し、人間の魂・生命を活性化するという意味。75種類にまとめられた個々の手法は「作戦」と呼ばれ、物語や詩の中にわざと間違いを入れて読み聞かせた上で間違いを探させたり、あらすじをクイズにして出題したりといったさまざまなプログラムがあり、深く読む習慣、読解力、コミュニケーション能力を養うことを目指す。（コトバンクより）

■協働によるまちづくりを進める銚子円卓会議への参画

1) すきくるプロジェクト

①地域通貨「すきくるスター」の流通促進を支える事務業務及び広報活動

- ・犬吠 WAON カード推進に係る業務の調整
- ・オールスターズ各店舗に係る精算業務／業務フォロー／PR 活動
- ・オールスターズ情報等掲載の「CHOSHI FANFUN BOOK」発行、配布
- ・地域通貨の研究（調査、実験、検証、結果の考察）
- ・その他
 - *「エシカルサマー（チャージキャンペーン）」実施
チャージ金額に応じスターを付与。寄付付き商品が当たる抽選会を同時開催。
 - *インターン事業において活動支援金としてスター入り犬吠 WAON カードをインターン生に配布。
 - *銚子市より銚子市成人式記念品として 500 スター入り犬吠 WAON カードを配布。

②「この指とまれ！プロジェクト」の推進

- ・イオンモール銚子2階、銚子市行政ブース「しおさいプラザ」にて、「この指とまれ！プロジェクト」活動紹介パネルとパンフ設置、及びイベント開催
 - ・銚子版寄付のしくみの推進
 - 募金箱（この指とまれ！スターボックス）設置
現金による寄付。有志店舗・事業所に設置を開始。
 - 寄付付き商品（ギフトスター商品）拡充
1点購入毎に、事業所から当プロジェクトへスターが寄付される。
対象商品「ちょうしおせんべい物語」「コメの実」根本商店
「咲咲（サクサク）食パン」サントノーレ
「オリジナルトートバッグ」リブリーズ
- ※上記商品は1点購入につき1スターの寄付だが、店舗により自由に設定可。

2) インターン支援事業（課題解決型インターンシップ事業の企画及び支援）

地方創生インターンシップ DELKUI 2019 において下記の通り支援。

①インターンシップ事業を効果的に推進するためのコーディネート

- ・住環境の手配
- ・最低限の生活用品の準備（家電、家具、生活・清掃用品、モバイル wi-fi など）
- ・オープンスペースの提供（作業スペースとして共有、プリンター等の事務用品の共有）
- ・実践的指導（日報の確認、関係者への配信、インターン生へのフィードバック、中間研修の実施）
- ・関係機関との連絡調整等（円卓ナイト、ENTAKU 1 DAY 研修の実施） など

②地域通貨を活用した支援の検討

- ・犬吠 WAON カードに 10,000 スターを付与し支給、及び利用状況のデータ抽出

③インターンシップ事業に関する広報活動

- ・銚子円卓会議ホームページでの告知
- ・SNS の活用（Facebook への投稿）
- ・チラシの作成、及び配布の協力依頼

3) 企業研修プログラム推進事業

- ・企業向け社会人研修「HINT」の開発、提案
- ・域内企業向け研修 YOSOMON ! の実施

その他、企業版ふるさと納税の推進、まちづくりワークショップによる学びの場、合意形成の場づくり等、銚子円卓会議協働事務局として活動。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (円)
COM杯 英語・日本語 スピーチ大会	コミュニケーション能力としての語学力育成を目指す英語・日本語スピーチ大会	12月 16日	銚子商工会館 1階大ホール	30	市内外の学生 留学生、一般 44名	35,000
ことばの冒険の部屋 ことばの冒険の旅	すべての学びのもととなる「読書」に関わる教室及び発表会	9月～ 2月 月2回	すきくる ステーション 銚子市 市民センター 市立明神小学校	15	小学校1年生 ～4年生 23名	86,087
すきくる プロジェクト	地域通貨の流通促進を支える事務業務及び、広報	通年	市内	10	一般	4,059,792
インターン支援事業	銚子円卓会議事業。課題解決型インターンシップ事業の企画及び支援	9月～ 3月	市内	5	大学生 企業 一般	498,593
企業研修プログラム 推進事業	銚子円卓会議事業。企業向け社会人研修プログラム開発	通年	銚子市役所内 会議室	2	一般	2,494,800